

## 第140回総合計画審議会における意見と県の対応

令和5年8月

第140回総合計画審議会における意見と県の対応

参考資料 5

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
新たな総合計画の策定基本方針（案）							
1	柳瀬委員	3	策定基本方針	従来、残念ながら政策目標に対するK P Iが、これで良いのかと思う項目も多くあった。K P Iだけにこだわると優先順位であったり緊急度なども、適切に遂行することができなくなる。今後もK P Iや指標を用いながら進めていくと思うが、確実に達成できるK P Iを設定するのではなく、本当に必要な、キーとなる指標を用いながら、寄与度や緊急度を追求してもらいたい。また、併せてその目標を達成するために必要な目標に今後果敢にトライしていただきたい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
2	小出委員	—	策定基本方針	この3年ほど、もともと立てたK P Iや目指したいものが、コロナの影響で状況が大きく変わって変えざるをえなくなった。違う指標を作るべきではないかと思うが、今の仕組み上、柔軟性が足りない。今後は、社会的に非常に大きな変動があったときには、K P I自体も見直せるような柔軟性を持てるようになっていただきたい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
3	中村委員	—	策定基本方針	本来、K P Iは必要に応じて変えていくものである。あくまでも基本目標を達成するために、この施策が重要かを示すのがK P Iの本来の趣旨で、目標に達成しなかったらこのK P Iは本当に正しいのか、しっかり議論して、他のもっと重要な政策があるのかどうか、それが分かったら変えるのがK P Iの目的で、途中で変えない方がむしろおかしい。基本目標は変える必要はないが、そのための手段であるK P Iについては本当に柔軟に変えるべき。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
4	柳瀬委員	—	策定基本方針	神奈川県は出生率の向上を、他の全国でも先駆けて注力し、本当に子どもが溢れて楽しいような県にしていけるべき。策定基本方針の2ページの点検結果を踏まえた課題に少子高齢化は書かれていて、その対策として、人口減少を少しでも緩和するための取り組み、これはもっともな内容である。また、将来の人口構造を踏まえた社会システムの再構築も、子どもが増えることが難しいので必要である。しかし、そもそも少子化対策、出生率の向上にもっとクローズアップして、ここに入っていないことは、あまり力を入れる気がないのかなと思う見方をする。	策定基本方針（案）に反映しました。	少子高齢化が進み、神奈川も人口減少局面に入ったものと考えられる中、くらしや経済活動を支えてきた社会のしくみや基盤の維持が困難となっていくため、子育て支援や人を呼び込む地域づくりなど人口減少を少しでも緩和するための取り組みや、将来の人口構造を踏まえた社会システムの再構築が求められている。	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
<b>将来を見据えた問題意識と当面の課題</b>							
5	小林委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	デジタル化の問題、この50の視点では7番と22番を密接につなげるための未来像として、在宅介護・在宅医療のデジタル化というのは絶対避けて通れないポイントである。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
6	河野委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	個人と県、その中間に位置するネットワークの重要性が高まるのではないかと。県がすべての問題に対応することは困難であり、他方で、個人の自助努力に、完全に依存するというのも困難である。産業や安全、福祉、海岸や文化保全など、地域のネットワークが非常に大きな意味を持つ。そういったものが県の魅力度を高めるといふことにもなり、多様なネットワークをいかに高度に作っていくのかという視点がこれからの課題、重要ではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
7	松行委員	22	2040年の神奈川を考える50の視点	50の視点は例えば中高生の学習などにも使われると思うので、注意深く作っていく必要がある。全体として暗い気持ちになる項目が多い。確かに人口減や高齢化社会は、暗い未来ではあるが、例えば22番のテクノロジーに関して、自動運転はかなり普及すると思われるが、それにより高齢化や人口減少が、かなり解決できるのではないかと期待もある。この未来のテクノロジーを1枚にまとめるのでは、もったいない。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	22 可能性を広げる未来のテクノロジー (分野) 産業・労働 (2030年頃) ・自立航行可能な無人運航商船の実現 (2030年代半ば～2040年頃) ・場所を限定せず操作できる車の自動運転システムの実現	総合政策課
8	渡辺委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	冷静な分析の上で、どんな未来を描いていきたいかという中には、例えば介護や子育ては大変だが、逆に幸せ度が増す面もある。高齢者が元気で、できるだけ長く健康でありながら穏やかな時間を過ごせるようにというのは、決してお金だけかければ実現することではなく、気持ちの面がとても大きいものである。それは、大変な子育ての中でも、それが、神奈川のマグネットという言葉に盛り込めたらよい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
9	海原委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	42番「障がい者施策は変わるか」で国連の総括所見が記載されているが、生活介護の事業所もいわゆる障がい者の権利条約に照らしてみると、課題があるところとされている。だから、ここの障がい者施策ではなく、このとらえ方をきちんとしていく必要があるのではないかと。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
10	瀧委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	2040年の問題だとか課題として考えたとき、一番最初にいつも出てくるのは少子高齢化。これは避けて通れないが、やはり一番のベースがどこにあるのか考えると、県民もしくは神奈川県に関わる方々たちが、誰一人も残さず、幸せに安全に暮らせること、それに関わることを行政として取り組んでいくことが非常に大事である。先週は集中豪雨もあったし、地震もあらゆるところで起きている。コロナも少しずつ増えているとニュースになっており、2040年にかけてもう1回パンデミックは必ず来ると思う。自然災害は避けて通れないので、それに対する備え、起こった時の対応、きちんとテーマの中に入れておくことが非常に大事である。サステナブルな環境をどう維持していくかは、安全に暮らしていくには必ず必要である。その中には自然、文化を維持することもある。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
11	小出委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	神奈川県の特徴として、産業の源としての自然というのがあってはどうか。海も山もある県なので、漁業があり、農業があり、林業があり、畜産業もある。自然を産業の源として、もっと活性化していく、または、神奈川県ならではのものとして、ブランド化していく。神奈川県ブランドとして、自然を源とした産業をもっと出していいのではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
12	小出委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	イノベーションをもっと活性化していくためには、人材の多様性が必要であり、女性の本当の活躍が重要になってくる。議会には女性議員がどれくらいいるのか。女性議員も増やして欲しい。県の審議会でも女性委員の割合がなかなか上がらない。本来であれば半分ずつについてもおかしくない。女性を本当の意味で重要な人材として活用し、そして格差のない賃金で、神奈川県はリードしていただきたい。多様性が新しい発想を生む、今までの延長線ではない新しい県のあり方や施策を考えなければいけないフェーズであり、そのためにも女性の多様な視点を取り入れていくということは非常に重要であり、ぜひ盛り込んでいただきたい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
13	牛山委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	議員の割合とか、国会議員とか含めて上がってきているが、自治体の現場に近づけば近づくほど女性がいなくなる。女性の自治会長は全国で5%、女性の防災委員は10%と地域の決定の場にはいない。いきなり議員に出るかという経験もなく、慣れていない中で、なかなか立候補できない。自治体の現場で女性が活躍したり、割合が増えていく視点も一つ加えていくと、神奈川県らしい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
14	岸部委員	一	2040年の神奈川を考える50の視点 神奈川の特徴と強み	県民意見募集の資料にもなると思うが、色々な資料を簡便に様々な県民の皆さんに見ていただくことで、大事なグランドデザインが決まっていくため、簡単に手に入る工夫が必要である。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
15	大村委員	一	神奈川の特徴と強み	スポーツのプロチームやトップチームが多いことも、神奈川の魅力の一つだと思っている。スポーツはコミュニティ的、健康的、教育的な要素があり、県でもスポーツツーリズムといった産業的な視点も取り入れられている。行政としての役割がなかなか明確になっていないと感じている。運動習慣を高めるなどの理念、考え方の向上だけでなく、他県にはない魅力のスポーツ産業をもっと目標として掲げて、スポーツの力を生かしたまちづくりや行政運営も大事である。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
16	大村委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	若年層の政治離れが懸念されているなど一般的には若者は政治に関心がないと言われているが、若者ほど社会問題に関心を持っていると感じている。高齢者の目線などが分厚い中で、やはり若者にも神奈川県に希望を持ってもらえるような、政策の立案、KPIの策定などを考えていくべき。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
17	田中委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	減り続ける子どもの問題に危機感を持っている。内閣府の調査によると理想の子どもの数を持たない、生まれない、理由で断トツに多いのは、子育てや教育にお金がかかりすぎるからという回答が一番多いというアンケート結果が出ている。一番お金がかかると言われている高等教育の負担軽減ということが必要である。例えば低所得家庭でも大学に進学できるような高等教育の無償化や授業料の減免、あと対応型ではなくて、給付型の奨学金制度の拡充等に取り組むべき。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
18	小林委員	一	将来を見据えた問題意識と当面の課題	時間のゆとりを幸福の評価指標に入れていくことはとても大事である。男性のようにガリガリ働くところに女性が入るということではなく、男性も少し時間のゆとりを持って、一旦休む時は子育てのために休み、それから介護の時も勇気を持って休む。そうした環境を作っていくことはとても大事である。女性の活躍社会も、そうした時間のゆとりを幸福度に盛り込むような試みを神奈川県でやっていただきたい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
19	田中委員	—	2040年の神奈川を考える50の視点	様々な課題を見ていると、ポジティブな気持ちにはなれないので、課題の解釈を変えると可能性という変化もできるかと思う。課題感覚だけでなく、ポジティブな面、こういう考え方もあるといったコメント欄をつけてみる、あなたはどうか考えますかみたいな問を付してみる等するとよい。2040年の時に果たして本当にこの課題の渦中にある世代は、若い人たちだと思うので、そういう人たちに当事者意識を持ってもらい、ネガティブな課題をどうポジティブに自分事として捉えられるかということ発信できるような、資料等も含め作成の工夫をお願いしたい。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	「はじめに」のページを追加しました。 スライド9, 11, 19に、ポジティブなコメントを追加しました。	総合政策課
20	小泉委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	社会はやはり経済主義で動いているから、GDPであったり、高機能であったり、高性能であったり、という物差しで考えるが、豊かな社会の質の部分、人間的なコミュニティであったり、支え合いであったり、そういった物差しで考えることによる豊かさというのを、県としてもぜひ考えていただきたい。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
21	瀧委員	—	2040年の神奈川を考える50の視点	課題を見ていくと、どうしてもネガティブなことが多いが、もっと前向きに、どうしたらみんなが明るい未来を築いていけるのかは、例えばイラストや写真を入れる等、もう少し楽しさがある、県民が答えやすい、ちょっとやってみようかみたいになるようなマインドセットがとても大事である。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	「はじめに」のページを追加しました。 スライド9, 11, 19に、ポジティブなコメントを追加しました。	総合政策課
22	関委員	—	2040年の神奈川を考える50の視点	図表は、神奈川県の数値と全国の数値の両方を比較した上で神奈川県の特徴を見せていくということをしつかりやっていくべき。ホームページに資料をアップするのであれば分量にあまり限りはないので、できるだけ神奈川県と全国の両方を示す数字を作っていただきたい。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	スライド 1, 6, 7, 8, 9, 11, 12, 31, 32, 36, 38, 43に、神奈川県と全国の両方を示しました。	総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
23	関委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	8の孤独な高齢者の増加の部分で、社会から孤立する高齢者が増加してる点は、大きな問題だと思っており、繋がりづくりが大切です。同時に、42から44のように、障がい者、ジェンダー、新たな人権の課題のように、多様性を重視する必要性も問われている。くらしと多彩な自然・文化が調和し、時代を切り拓く人材や産業が集う神奈川、多様な人材の活動拠点という神奈川の特徴や強みを生かした形の多様性を検討していく必要がある。この多様性や、繋がりづくりは、なかなかKPIでは評価しづらい点である。NPOとかボランティアとかによる多様な活動を、より神奈川の強みとして転換していくためには、これまでも課題となってきたが、こうした繋がりづくりや多様性をどう評価していくかということをしっかり検討していくべき。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課
24	小池委員	—	2040年の神奈川を考える50の視点	高齢化にしても非常に減り続ける子どもにしても、もちろん課題なわけですが、ここから何かを変えていくということを価値付けていき、その中で、弱みはただ単なる弱みではなく、何かを生み出すチャンスにもなりうるというメッセージを、この「2040年の神奈川を考える50の視点」の中に込められると良い。課題ではあるが、実は神奈川が新しいバリューをつくり出していくための、とても大きな資源でもあるという発想から、この「2040年の課題を考える50の視点」の課題に取り組んでいく、というメッセージを込めて県民に対して問うていくことで、素敵なアイデアを頂戴できる問いかけができればよい。	2040年の神奈川を考える50の視点に反映しました。	「はじめに」のページを追加しました。 スライド9, 11, 19に、ポジティブなコメントを追加しました。	総合政策課
25	久本委員	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	移住の支援やテレワーク支援等を進めていくことで、2040年に多くの観光客や外国人の方を神奈川に向かい入れることや、同時にその地域に働き手を作っていくことになるので進めていくべき。県では「かながわ脱炭素ビジョン2050」を策定もしているので、脱炭素社会の実現に向けて、県民と一体となって持続可能な地域を作るという意味で、やはり環境は外せない点で、拡充させたものが必要になってくる。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課

NO	委員名	頁	項目名	意見	対応	記載内容等	担当局
26	清家会長	—	将来を見据えた問題意識と当面の課題	2040年の問題を考えると、人口構造は一番確実な将来予測変数でもあるので、少子高齢化の中で、県民がどうしたら幸せに暮らせるか、ということを考えることが大切である。その際のポイントは、行政が、あれもこれもサービスを提供する、いわゆる「サービスプロバイダー」から、県民一人一人が多様な考え方に従って幸せになる舞台を整えていく「プラットフォームビルダー」となるような転換が必要になってくるのではないか。	新たな総合計画を策定するプロセスの中でご意見の趣旨を生かしていきます。		総合政策課